

# 平成28年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

三次市立三和 中学校

## 1 国語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる 生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
		目標	結果			
第1学年	話す・聞く能力	13.0	10.0	○説明文の内容を読み取る問題で、すべての正答率が全国正答率を大幅に上回った。(全国+18.6%) ○大問6、7の活用問題で、すべての正答率が全国正答率を大幅に上回った。特に作文の問題が上回った。(全国+23.5%) ●小学校で学習した漢字の書き取りの正答率が低い。漢字の定着に課題がある。(全国-7.2%)	○全体的に肯定的評価が高い。 ・国語の勉強が好き：+29.4% ・1ヶ月に読む本の冊数：4冊以上24.2% ・国語の勉強が生活の中で役に立つ：+16.2% ●「自分の思いや考えを積極的に話しているか」で、「そうしていない」の答えた生徒が37.6% おり、全国の回答よりも率が高い。思いや考えを表現することに関して課題がある。	①小テストや放課後ドリルを行い、漢字を繰り返し学習する機会を増やす。家庭学習の内容を改善し、小テストやドリルと関連づけた取組をする。 ②漢字の定着を図るために、漢和辞典や国語辞典を活用し、短文作りをする。 ③話し合い活動を中心に、意見や考えの述べ方を提示し、生徒全員が発言できるような場を設定する。
	書く能力	18.0	22.0			
	読む能力	12.0	14.1			
	言語	12.0	7.7			
第2学年	話す・聞く能力	3.0	-2.5	○グラフをもとに自分の考えを書く問題の正答率が、全国正答率を上回った。(全国+14.8%) ●漢字の書き取りの正答率が低い。漢字の定着に課題がある。(全国-17.5%) ●文学作品の正答率が全体的に低い。特に「登場人物の心情をとらえる」に課題がある。(全国-13.1%)	○「国語の勉強は好きか」の項目の肯定的評価が高い。(全国+33.4%) ●「国語辞典を使うか」の項目で、「使わない」と66.7%の生徒が答えており、辞典を使う習慣が定着していない生徒がいる。 ●1か月の読書量が「1冊程度」「ほとんど読まない」と答えた生徒が91.7%いる。読書の習慣が定着していない。	①小テストや放課後ドリルを行い、漢字を繰り返し学習する機会を増やす。家庭学習の内容を改善し、小テストやドリルと関連づけた取組をする。 ②意味調べの宿題を出すなど、国語辞典を使う機会を増やす。語句を使った短文作りをさせ、語彙を増やすために取組む。 ③学級文庫を設置や図書を紹介するなど読書の環境を整え、図書に触れる機会を増やす。
	書く能力	4.0	14.0			
	読む能力	3.0	-7.1			
	言語	8.0	-5.9			
全体	○グラフや資料をもとに、自分の考えを書く問題の正答率が全国正答率を上回っている。 ●小学校時に学習した漢字の書き取り、文法、ことわざなど言葉に関する基礎的・基本的な知識が定着していない。			○「国語の勉強が好きか」「生活の役に立つと感じることがあるか」の項目の肯定的評価が高い。 ●「国語辞典を使うか」の項目で、「使わない」と答えた生徒が多く、辞典を使う習慣が定着していない。	①小テストや放課後ドリルを行い、漢字を繰り返し学習する機会を増やす。家庭学習の内容を改善し、関連づけた取組をする。 ②国語辞典を使い、短文作りなど、語彙を増やす取組を行う。	

2 社会

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	目標	結果				
第1学年	思考・判断	13.0	8.5	<p>○基礎・活用ともに全国平均を上回った。 基礎 64.7% (全国+9.2%) 活用 60.0% (全国+11.3%)</p> <p>○すべての領域で全国平均を上回った。 ●飛鳥時代～平安時代の正答率が若干低い。 55.2% (全国+5.8%)</p>	<p>○「社会の勉強により、新聞やニュースに関心を持つようになった」と答えた生徒が 68.8% (全国+7.5%) であり、学習したことと実際の生活を関連付けている。</p> <p>●「社会の勉強が好き」という肯定的評価 (62.5%) が低い。(全国-2.1%) 肯定的評価が上がれば、学力の全体的な底上げになると考える。</p>	<p>①小テストを実施し、基礎・基本の定着を図るとともに、「できた」喜びを実感させ、学習意欲の向上につなげる。</p> <p>②既習事項と現在の社会情勢を関連付ける学習を取り入れる。</p> <p>③既習事項の定期的な振り返りの学習を行う。</p>
	技能	12.0	11.1			
	知識・理解	13.0	8.7			
	目標					
第2学年	思考・判断	2.0	2.2	<p>○活用が全国平均より 15.4%上回った。 ●基礎が全国平均より 0.8%低い。 ●日本の諸地域と近世の日本の正答率が低い。 日本の諸地域 45.8% (全国-4.6%) 近世の日本 48.6% (全国-6.5%)</p>	<p>○「社会の勉強が生活の中で役に立つ」という肯定的評価が全国+2.1%であり、社会の学習が実際の生活に役立っていることを実感している。</p> <p>●「社会の勉強が好き」という肯定的評価 50.0% (全国-8.8%)、「歴史上の人物やできごとの本を読むことは好き」という肯定的評価が 41.6% (全国-12.7%) となり、社会科の学習意欲 (特に歴史) に課題が見られる。</p>	<p>①小テストを実施し、基礎・基本の定着を図るとともに、「できた」喜びを実感させ、学習意欲の向上につなげる。</p> <p>②既習事項と現在の社会情勢を関連付ける学習を取り入れる。</p> <p>③歴史上の人物の功績や歴史的な出来事の影響などをまとめる活動を通して、本や資料に触れさせ、学習意欲の向上を図る。</p>
	技能	3.0	6.3			
	知識・理解	2.0	-0.8			
	目標					
全体	<p>○1, 2年生ともに平均正答率が全国正答率を上回った。</p> <p>○1, 2年生ともに、活用の平均正答率が全国正答率を上回った。</p> <p>●1, 2年生ともに、「知識・理解」の正答率が低い傾向にある。</p> <p>●2年生は「日本の諸地域」と「近世の日本」の領域に課題がある。</p>			<p>○社会の学習を通して、新聞やニュースに関心を持ったり、生活の中で役に立ったりしていると感じる生徒が全国平均を上回っている。</p> <p>●学力の向上に欠かすことができない学習意欲が1, 2年生とも低い。学習意欲の向上が、全体的な学力の向上につながると考える。</p>	<p>①小テストを実施し、基礎・基本の定着を図るとともに、「できた」喜びを実感させ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>②レポートやディベートなどの OUTPUT する学習活動を取り入れる。</p> <p>③歴史上の人物の功績や歴史的な出来事の影響について、積極的に発信し、興味を持たせる。</p>	

3 数 学

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	目標	結果				
第1学年	考え方	12.0	13.5	<p>○すべての領域、及び基礎・活用ともに全国平均を大幅に上回った。</p> <p>○記述式の問題で全国平均より 10%上回った。</p> <p>●関数の分野に課題があり、具体的な事象から比例の式を答える問題に課題がある。 17.6% (全国-3.6%)</p>	<p>○意識調査より、数学に対する学習意欲が高く、興味・関心をもって学習できていることがわかった。</p> <p>・好き：93.7 (全国+34.7%)</p> <p>・発表し合うのが好き：68.8 (全国+19.5%)</p> <p>・生活の中に役立つ：93.7 (全国+10.1%)</p> <p>●問題が解けたときに、別の解き方を考えないと答えた生徒が 25.0%おり、多様な考えを持てるように指導する必要がある。</p>	<p>①单元ごとに活用問題を充実させ、多様な解き方を考えさせられるように工夫する。</p> <p>②具体的な事象や実生活と結びつく、教材を作成し、考えさせる。</p> <p>③毎時間の小テストや、家庭学習プリントに関数分野を積極的に取り入れ、定着を図る。</p>
	技能	8.0	12.8			
	知識・理解	10.0	14.1			
	目標					
第2学年	考え方	3.0	6.8	<p>○すべての領域および、基礎・活用ともに全国平均を上回った。</p> <p>○図形領域において全国平均を 10.2%上回った。</p> <p>●記述式の問題に課題がある。</p> <p>・文字式を使った説明 33.3% (全国-2.1%)</p> <p>・グラフをよみ取って説明する問題 8.3% (全国-8.8%)</p>	<p>○問題がとけなかったときに、なぜ解けなかったか振り返る生徒の割合が高い。 75.0% (全国+5.5%)</p> <p>○数学が生活の中で役立つと感じると答えた生徒の割合が高い。83.3 (全国+7.2%)</p> <p>●問題が解けたときに、別の解き方を考えないと答えた生徒が 41.7%おり、多様な考えを持てるように指導する必要がある。</p>	<p>①授業の練習問題で定期的に記述式の問題を取り入れる。</p> <p>②発表のとき、解答だけでなく、解き方を説明させる活動を積極的に取り入れる。</p> <p>③高校入試を意識し、グラフや表をよみ取り、説明する活用問題を各单元で取り入れる。</p>
	技能	3.0	6.3			
	知識・理解	5.0	11.3			
	目標					
全体	<p>○おおむね、基礎的・基本的な問題の定着が見られ、数量や図形などの知識・理解の観点では、1, 2学年とも全国平均を 10%以上上回った。</p> <p>●具体的な事象を数学的にとらえ解決する問題や、文字式を使って説明したり、グラフをよみ取って説明する記述式の問題に課題が見られた。特に、第2学年において、記述式に無解答が多く、無解答率を 0%にする指導が必要である。</p>			<p>○1学年、2学年共に、解けなかった問題を振り返る生徒が 75%以上と高く、解けるように努力する生徒が多い。</p> <p>○別の解き方を考えない生徒が多く、多様な考えを持ったり、新しい解法を考えられるようにする必要がある。</p>	<p>①引き続き、生徒の実態に応じた小テストを毎時間実施し、さらに定着を図る。</p> <p>②活用問題を考えるとき、集団思考の場を設定し、自分の考えを説明するほか、多様な考えが交流できるようにする。</p>	

4 理 科

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	目標	結果			
第1学年	科学的思考	20.0	-2.5	○実験や観察をすることについて興味・関心が高い。 93.8% (全国+7.4%) ○分からないことや興味・関心をもったことについて調べようとしている生徒の割合が高い。 62.5% (全国+9.2%) ●理科の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはあると考えている生徒の割合が 62.6% (全国-1.7%)と低く、理科の学習を生活と関連付けることができていない。	①小テストや復習ドリルを積極的に取り入れ、知識・技能の定着を図る。 ②日常生活に関連した教材を用意し、疑問を投げかけ、日常生活における科学的知識の活用方法を考えさせる。 ③単元の終末で知識を複合的に活用しなければならない問題を提示し、協同して課題を解決させる。
	技能	8.0	2.3		
	知識・理解	19.0	8.4		
第2学年	科学的思考	2.0	5.1	○実験や観察をすることについて興味・関心が高い。 91.6% (全国+9.7%) ○理科の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはあると考えている生徒の割合が 66.7%と高い。 62.5% (全国+7.6%) ●自然や理科の読み物や図鑑、テレビ番組などを見る生徒の割合が 33.4% (全国-7.4%)と低く、理科で学んだことをもとに様々なことを自分自身で調べてみようとする意欲が低い。	①グラフを作成する実験や、グラフに関する問題を各単元で取り入れる。 ②日常生活ではあまり起きない不思議な現象を提示し、様々な事物・現象に対する興味・関心を高める。 ③各単元で知識を活用しなければ説明できない課題を提示し、協同して課題を解決させる。
	技能	12.0	-2.5		
	知識・理解	5.0	7.3		
全体	○おおむね、基礎的・基本的な知識・理解の定着が見られ、自然事象についての知識・理解の観点では、1, 2学年とも全国平均を7%以上上回った。 ●実験結果を処理する問題に課題が見られた。計算問題やグラフの作成など、実験から得られた数値を処理する方法についての指導が必要である。			○1, 2学年ともに、実験や観察をすることについて興味・関心がある生徒が90%以上と高く、意欲的に実験や観察に取り組める。 ●日常生活と関わりのある教材や、既習事項とのギャップや驚きを感じられる現象を提示して様々なことが理科の学習と関わることを認識させる必要がある。	①実験結果をまとめる時間を十分に確保し、データを処理する方法を確実に身に付けさせる。 ②日常生活に関連する現象や、驚きを感じられる現象を提示し、理科の学習に対する興味・関心を高めさせる。 ③複合的な知識が必要な課題に対して協同で取り組む場を設定する。

5 英語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	目標	結果				
第1学年	表現の能力	10	1.6	<p>○基礎・活用とも全国平均を上回った。 基礎 74.0%(全国+7.2%) 活用 59.1%(全国+11.8%)</p> <p>○すべての領域で正答率が高く、全国平均を上回っていた。 ●単語の並べ替えによる英作文の正答率が低い。 46.9%(全国-0.7%)</p>	<p>○「英語が好き」と答えた生徒が50%(全国+15.2)である。 ○「テレビやラジオで家庭で英語の勉強をする」と答えた生徒が25%(全国+6.7%)である。 ○ALTに廊下で話しかけられたら会話をしようとする」と答えた生徒は37.5%(全国+19.1%)である。 ●「英語の辞書を使用する」と答えた生徒は18.8(全国-2.1)である。</p>	<p>①毎時間の小テストに個人の考えを英語で書く問題を入れる。 ②生活と結びつく活用問題を作成し、ペアーやグループで情報交換をする ③辞書を使い、ペアーでスキットを作成し、発表させる。 ④宿題や毎日ノートで定着を図る。 ⑤ALTに積極的に授業以外でも生徒に話しかけてくれるよう促す。 ⑥英検の受験を促し、興味関心を育てる。</p>
	理解の能力	5	3.4			
	知識・理解	7	-1.3			
第2学年	表現の能力	18	-11.5	<p>○活用において全国平均を上回った。 50.4%(全国38.7%)</p> <p>●基礎に課題があり、全国平均よりも4.4%下回った。 ●語彙力が少なく、英作文の問題の正答率が低く、書くことの領域が全国平均を6.3%下回った。</p>	<p>○「英語が好きだ」と答えた生徒が24%(全国+2.5%)である。 ○ALTに廊下で話かけられたら会話をすると答えた生徒が16.7(全国+1.4%)である。 ●テレビやラジオで家庭で英語の勉強をする」と答えた生徒が0%(全国-14.3)である。 ●「英語の辞書を使用する」と答えた生徒が0%(全国-19.7%)である。</p>	<p>①様々な場面において英語に興味を持たせる活動をする。 ②実際の生活の場面で、英語が使われている実感をさせる場面設定を授業に取り入れる。 ③自分を英語で表現できる自信を持たせられるよう、自己表現の場面を増やす。 ④プロジェクト課題のレッスンでは英語の辞書を使って自ら英文を作り発表できるようにする。</p>
	理解の能力	2	2.7			
	知識・理解	12	-22.5			
全体	<p>○1年生に関しては、基礎的な力は身につけており、聞く、書く、読むすべての領域で全国を上回っている。 ○2年生に関しては、聞く力、読む力は全国平均を上回っている。 ●2学年とも聞く、書く、読むの領域の中では書く力を上げる必要がある。 ●2年生に関しては、語彙の知識に大きく課題がある。</p>			<p>○「英語が好き」と答えた生徒が2学年とも全国を上回っており、ALTに話しかけられたら何とか答えようとする」と答えた生徒も2学年とも全国を上回っており、英語に関する興味・関心がある。 ●辞書等で色々な表現を調べて、英語で自己表現を積極的にしていくことが苦手な生徒が多い。</p>	<p>①毎日の単語・構文テストで基礎・基本の力を定着させる。 ②毎時間、自己表現をさせて、その英文を書かせる。 ③ペアー、グループ活動で英語を使って互いの情報を交換してコミュニケーションを図る場面を作る。 ④英語を通して、外国の文化や歴史、違った価値観など示していく。</p>	

6 生活と学習に関する意識・実態

学年	○一層定着させたい点 ●改善したい点	課題に対する具体的な取組
第1学年	<p>○「学校の授業は楽しい」と答えた生徒が81.3%である。(全国+26.4%)</p> <p>○「学校での授業はわかる」と答えた生徒が81.3%である。(全校+11.5%)</p> <p>○1日の学習時間 1時間以上 56.3% (全国+17.4%) 2時間以上 37.5% (全国+12.2%)</p> <p>●「学校が好きだ」と答えた生徒が62.5%である。(全国-17.1%)</p>	<p>①HRのドリル学習や授業導入時の既習事項の確認を行うことで、一層の基礎・基本の定着を図る。</p> <p>②学活などの時間を活用し、ソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に取り入れ、人間関係を再構築していく。</p> <p>③意図的にグループを作り、人間関係の固定化を防ぐ。</p>
第2学年	<p>○「勉強は大切だ」 83.3% (全国+25.7%)</p> <p>「勉強は受験に関係なくても大切だ」 75.0% (全国+32.3%)</p> <p>「勉強すれば好きな仕事につくことに役立つ」 75.0% (全国+26.3%)</p> <p>この結果から、勉強の大切さや意義については理解できている。</p> <p>●1日の家庭学習時間が2時間以上の生徒の割合 平日 8.3% (全国-18.7%) 休日 25.0% (全国-21.3%)</p> <p>家庭学習時間や学習量が少ない。</p>	<p>①勉強の大切さや意義については理解できているが、実際の学習では十分に成果を上げることができていない生徒が多く、家庭学習の習慣化や学習量を増やす。そのため、自学習ノートの取組を工夫していく。</p> <p>②3年生へ向け、個々の生徒に具体的な目標を持たせ、学習意欲を高めていく。</p> <p>③これまでの学習での積み残しや、つまづきについて整理させ、苦手教科の克服を図る。</p>
全体	<p>○「わからないことでも自分で答えが見つけれられるよう勉強したい。」と主体的に学ぶ生徒を増やす。 1年生 87.5% (全国+8.0%) 2年生 83.4% (全国+6.8%)</p> <p>●1日の家庭学習時間で2時間以上する生徒の割合を増やす。 1年生 平日 43.8% (全国+10.8%) 休日 87.6% (全国+31.3%) 2年生 平日 8.3% (全国-18.7%) 休日 25.0% (全国-21.3%)</p> <p>●「授業がわかる」と答えられる生徒を増やす。 1年生 81.3% (全国+11.5%) 2年生 41.7% (全国-21.6%)</p>	<p>①生徒の実態に応じた課題を設定し、個人思考の時間の確保と思考が深められる集団思考の設定の工夫を行い、生徒が意欲的に取り組める授業づくりを行う。</p> <p>②継続して全員で自学習ノートのチェックを行い、自学習ノートへの意欲付けのほか、定期的な学習時間調査と個別指導、及び保護者の協力のもと家庭学習時間を伸ばしていく。</p> <p>③毎時間、授業の導入部分で既習事項の確認や小テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。また、授業おわりにふり返りを行い、個々の理解度を把握し、適宜、個別指導を行っていく。</p>